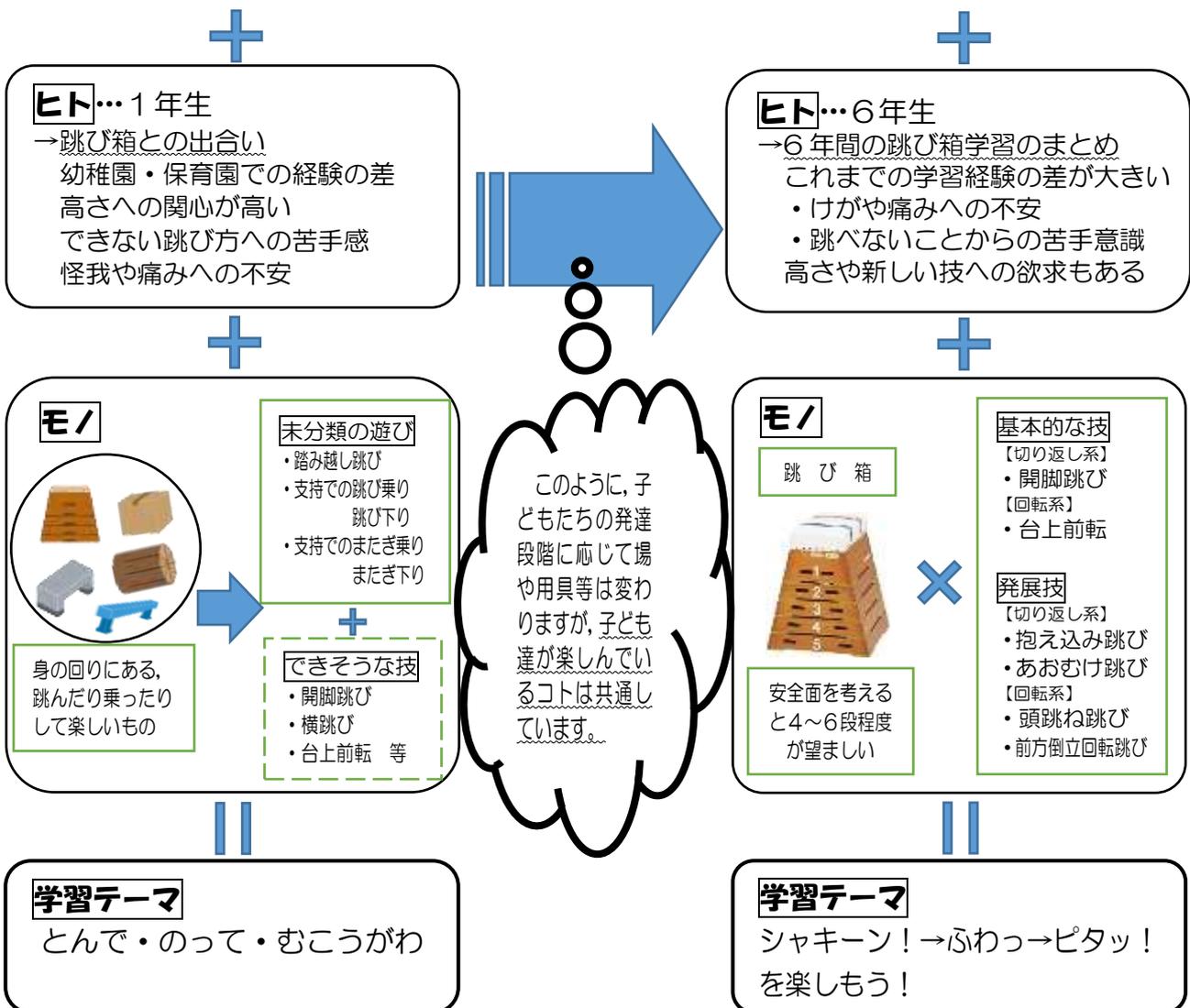


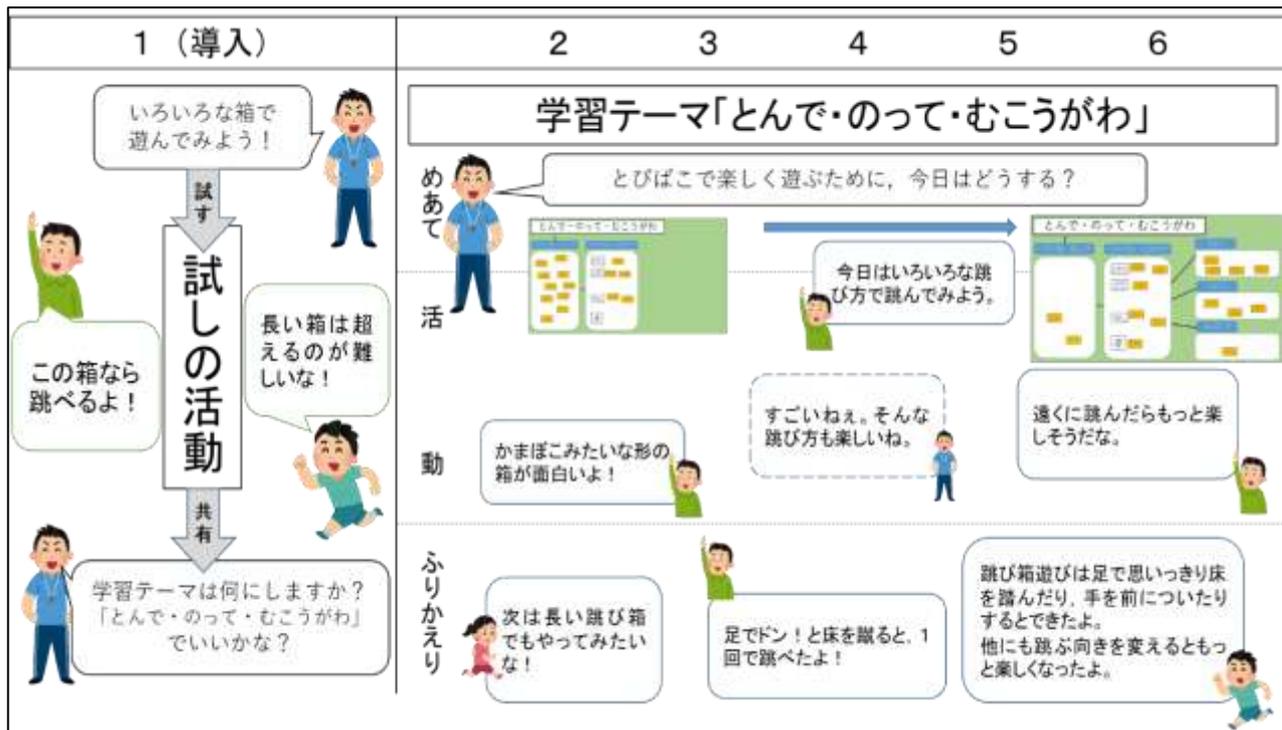
本校体育科及び本単元の基本的な考え方

跳び箱の面白さとは、何だろうか。柵やフェンスを乗り越えたり、歩道の車止めに乗ったり、そこから跳び下りたりして遊ぶ人の姿を、誰しもが見たことがあるだろう。目の前に障害物が現れた時、人はそれを「乗り越える」ことで遊ぶ。これが、跳び箱運動のコトの本質である。ところが跳び箱に対して、子ども達が抱くイメージは、「高い段に挑戦することが楽しい」「技ができるのが楽しい」といったところであり、そこに難しさを感じている子どもも多いのではないだろうか。跳び箱の高さや技の難易度や種類は、跳び箱運動の面白さを味わい続けるための要素ではあるが、それ自体が目的ではない。「乗り越える」ことの面白さに向かって活動する中で、技を駆使した跳び方にこだわりをもち、その運動の楽しみ方が広がっていくのである。そこで単元の導入時に「跳び箱とは、どんな面白い運動（遊び）か」を教師と児童が学習テーマとして共有する。

跳び箱のコトの本質…年代や目的が違って変わらない誰にとっても面白いこと
 障害物を様々な乗り方や降り方で越え、向こう側へ着地することが面白い遊び



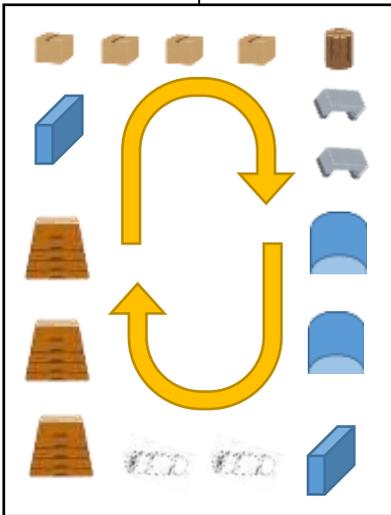
1年 跳び箱を使った運動遊び ☆単元計画の意図



	1	2	3	4 (本時)	5	6
0	・オリエンテーション ・試しの遊び ・学習テーマの設定	めあて1 いろいろな場でできる遊びを楽しむ。				
45	・この箱なら跳べそうだな。 ・1回で跳ぶのは難しいなあ。	めあて2 いろいろな跳び方に挑戦して楽しむ。				まとめ
子どもの姿		・かまぼこみたいなので跳ぶと楽しいな。 ・いっぱい体を動かしたよ。 ・次はあっちに行こう！			・遠くを目指して跳ぶぞ！ ・着地するときの向きを変えたら難しくなったよ！	
手立て・言葉かけ(例)	「どんな遊びができるかな」 「たくさん遊んでいるね」 「どんなところがおもしろかった？」 「いろいろな場や跳び方があるね」	「ドン！と床を踏んでごらん」 ・活動の場の変更 ・踏切の価値付け	・学習カード 「あっちでも同じようにできる？」 「そんな跳び方もできるんだね」	「その跳び方がこいいね」 「もう少し低いところでやってみよう」	「遠くまで跳んだね！」 「もっと前に手をつけてごらん」	「どんなところがおもしろかった？」
学習評価	・跳び箱等を使った運動遊びに進んで取り組んでいる。 ・片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりしている。	・順番やきまりを守り、友達と仲良く遊んでいる。 ・助走から両足で踏み切り、支持でのまぎ乗り・下り、跳び乗り・下りをしている。	・友達と協力して準備や片付けをしている。 ・場に応じた自分なりの楽しさを見つけて活動している。	・場や用具の使い方など、安全に気を付けてやっている。 ・より楽しむために、場や用具を変えて遊び方を工夫している。	・遊びの中で楽しかったことを伝えている。	・気付いたことや工夫したことを、友達に伝えている。
教師の思い	・跳び箱の面白さを児童と共有したい。	・いろいろな場で楽しく遊んでほしい。 ・両足踏切を意識してほしい。	・お気に入りの場や跳び方を見つけてほしい。	・自分の選んだ場や跳び方にこだわって楽しんでほしい。	・もっと楽しくするために、跳び箱の高さや跳んだ距離、着地の向き等に目を向けてほしい。	

☆本時までの単元の流れ

本時に至るまでの単元の流れを、児童の主な活動と教師の関わり・手立てという2つの軸で以下に示す。また、実際の児童らの活動の様相について図や写真等を用いて明示していく。

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
<p>第一時 十一月十七日(火) ①</p>	<p>○ オリエンテーション (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱等の持ち方, 運び方 ・ 遊びのルール <p>○ 試しの遊び (15分)</p>  <p>○ 学習テーマの共有 (5分)</p> 	<p>○ 中央に集めた道具を見せ、これでどんな遊びができそうか問いかけた。道具は2人で1つぐらいの数を用意し、たくさん遊べるようにした。</p>   <p>○ 試しの遊びを通して、どんな遊びができたか問い、いろいろな乗り方や跳び方があることを確認した。</p> <p>○ 共通することとして、目の前の物の向こう側に行くことを目的にしていることから、児童の言葉を使って学習テーマを設定した。</p>
<p>学習テーマ「とんで・のって・むこうがわ」</p>		
	<p>○ 再度試しの遊びをする。(10分)</p> <p>○ ふりかえり・片付け (10分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなものでいっぱいとんだりのったりして楽しかった。 ・ ながいとびばこや1回でできないとびばこもありました。 </div>	<p>○ いろいろな場で、進んで楽しく遊ぶ子どもたちの姿を称賛した。</p> <p>○ 乗り越えて着地できた瞬間を一緒に喜び、価値付けていった。</p> <p>○ 学習テーマを再確認し、これからの跳び箱遊びの見通しをもつことができるようにする。</p>

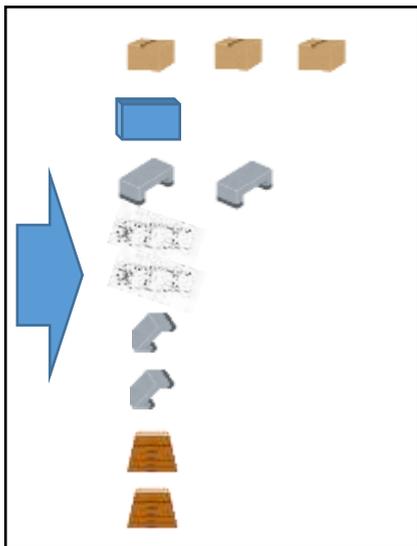
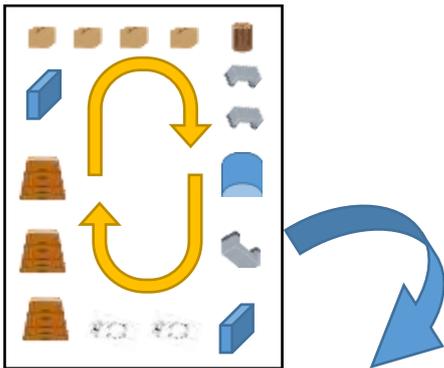
第二時
十一月二十日（金）⑤

○ 準備運動・場の準備（5分）

○ 個のめあての設定（5分）

- ・いろいろな跳び箱であそぶ。
- ・長い跳び箱に挑戦する。
- ・連続でたくさん跳ぶ。 など

○ 活動する。（30分）



○ 準備運動は「かえるの足うち」「うさぎ跳び」を行い、高く足を上げたり、前に手をつけて大きく進んだりする子を称賛した。

○ 最初は前回と同様の場で遊ぶが、その際安全のためにも、踏切と着地は、両足で揃えることを確認した。

○ 個のめあてを把握し、子どもたちの活動の様子を観察する。踏切に着目し、両足での力強い踏切になっていない児童を確認した。

○ 場によって人数の偏りが見られ、行列ができるようになったために、場を変更した。これにより、数歩の助走をとることができるようになり、踏切をして思いっきり跳ぶ感覚を楽しむことができるようにした。

○ ふりかえり・片付け（5分）

- ・はばが広いもので遊びました。跳んで乗ろうとしたら、幅が広くて跳べなくてびっくりしました。
- ・このまえより高いところがあった。2回するとできた。大きいのは難しかったけど、次はいきたい。
- ・かまぼこみたいなものたてがはじめてできてよかったです。
- ・小さいのも大きいのも難しい、私には3段ぐらいがちょうどいい。
- ・〇〇さんの跳び方と、私の跳び方は、ちがう跳び方でした。

○ 1枚のふりかえりシートを用いて、本時の感想とともに、次にやりたいことを考え、次時のめあてにつなげるようにした。

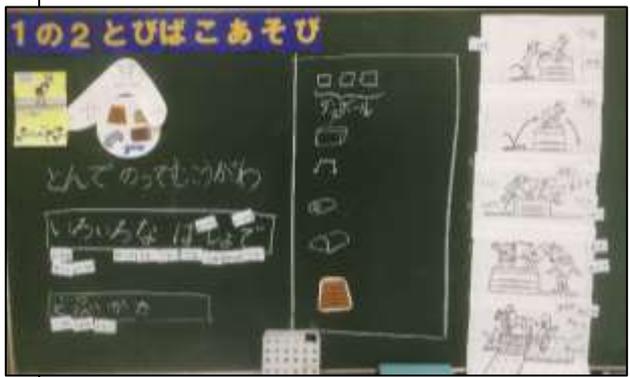
とびばこあそび～1・2・ジャンプ～		ふりかえりシート	名まえ()
月 日 ※きょうの学び・がんばったこと			月 日 ※きょうの学び・がんばったこと
月 日 ※きょうの学び・がんばったこと			月 日 ※きょうの学び・がんばったこと
月 日 ※きょうの学び・がんばったこと			月 日 ※きょうの学び・がんばったこと

第三時
十一月二十四日(火)
①

- 準備運動・場の準備（5分）
- 個のめあての設定（5分）

- ・いろいろな跳び箱であそぶ。
- ・長い跳び箱に挑戦する。
- ・連続でたくさん跳ぶ。 など

→黒板に名前磁石を貼って、明示する。



- 活動する。

めあて1 いろいろな ばしょで あそぶ



めあて2 いろいろな 跳び方で あそぶ



- ふりかえり・片付け（5分）

- ・跳ぶときに「ドン」とやると、たかくとべました。
- ・1このものでとびかたをくふうしました。かまぼこの箱でいろいろな跳び方ができました。
- ・3これんぞくの段ボールのところかたのしかったです。またやりたいです。
- ・友達がいいところを見つけてくれました。跳び方と着地がきれいと言われました。

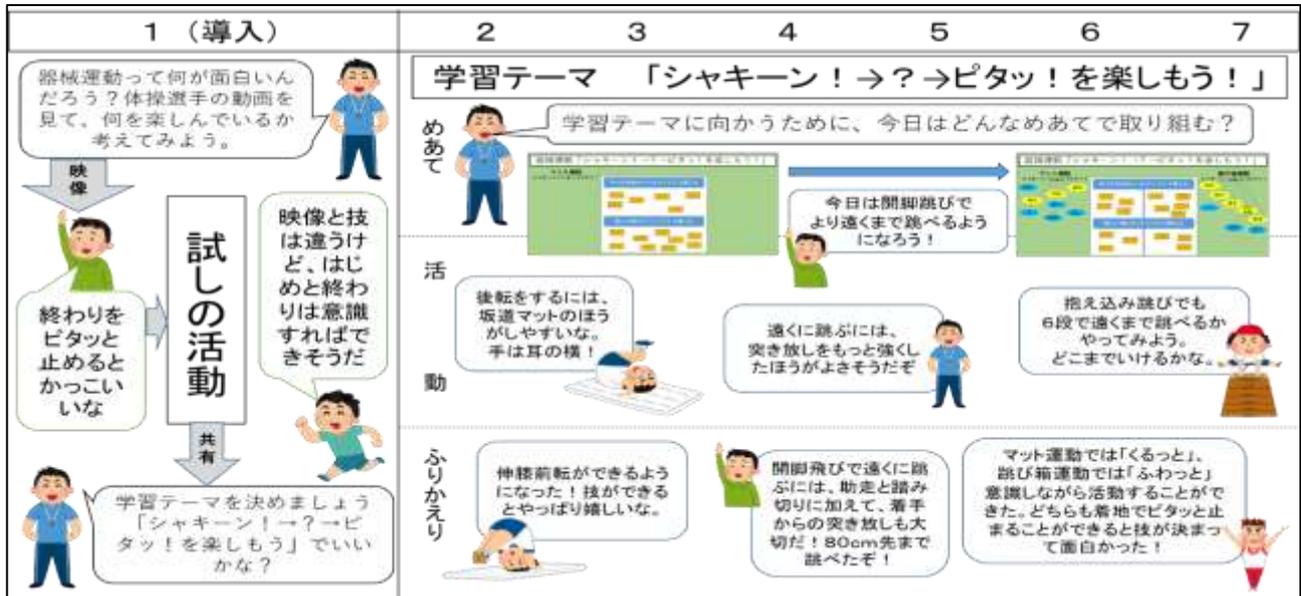
- まずは全ての場を通して遊び、乗り越えること自体の感覚をたっぷり味わうことができるようにした。
- 遊んでいくうちに、いろいろな跳び方に興味をもったり、「この跳び方でやりたい！」というこだわりをもったりする様子が見られるようになった。そういった子から随時めあて2へ移行していった。



- 子どもたちの思いや願いに応じて必要な場を提案したり、アドバイスをしたりした。
- 踏切がうまくいかない子には、ケンステップを用いて踏切位置を示した。
- 着地の場面に着目し、ピタッと止まっている子の姿を価値づけるとともに、最後にもう一度1回ずつ跳び、着地の感覚を確認した。
- どの場でも、「むこうがわに着くときはピタッ！」となることを全体で共有した。

6年 器械運動 シャキーン→?→ピタッ！（マット・跳び箱複合単元）

☆本単元のイメージ図

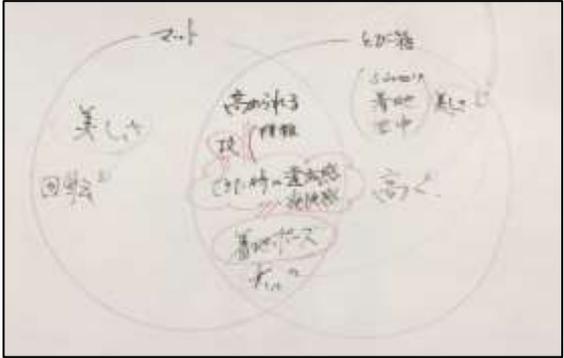


☆本単元の具体的な構想

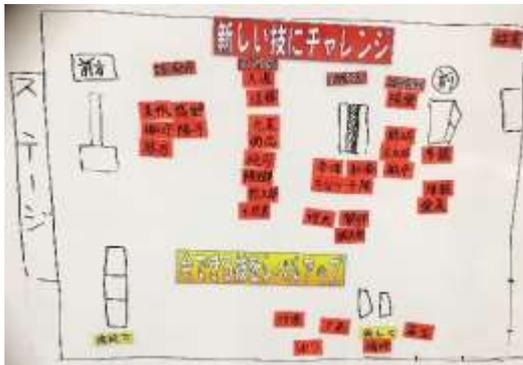
	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
0 45	運動との出会い 試しの活動 学習テーマ決め	マット運動〔くるっと〕 ねらい1	今できる技のできばえを高めたり、 新しい技に挑戦したりして楽しむ。	跳び箱運動〔ふわっと〕		選択 (マット or 跳び箱) ねらい2	自分なりに運動の面白さを追求して楽しむ。
子供 の 姿	・マットと跳び箱をするのか。 ・2つの面白いことは何だ？	・後転や伸膝前転など新しい技ができるようになりたいな。 ・今できる技を組み合わせ、よりスムーズにしたいな。		・開脚跳びでもっと遠くから跳んで遠くに着地したいな。 ・台上前転や抱え込み跳びなど、新しい技に挑戦したい。		・まだできなかった技を習得するために、勢いをつけよう。 ・できるようになった抱え込み跳びでより高い段もやろう。	
手 立 や 言 葉 か け	「どんな技ができるかな。確かめてみよう。」 「マットと跳び箱の共通の面白さって何だろう。」	・形態図の活用 「足の裏で立つには回転のスピードが足りないね。」 「勢いをつけるにはどうしたらいいだろう。」 「その技の練習には3つ方法があるよ。どの方法がいい？」		【助走】【踏み切り】【着手】 【空中姿勢】【着地】のどこに気を付けているの？ 「今、着手の音が大きかったからふわっと跳べたね。」 「ピタッと止まるには、膝をどうすればいいかな。」		「形態図と友達の技を見比べてみよう。何ができていて、何ができていないか、伝えてあげよう。」 「自分が満足する【シャキーン→?→ピタッ！】はできたかな？」	
学 習 評 価	・場や用具の安全に気を配りながら活動している。	・マット運動の基本的な技を安定して行ったり、発展技を行ったり、それらを組み合わせたりしている。 ・自分の気づいたことや考えたことを他者に伝えている。		・跳び箱運動の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。		・友達と助け合いながら活動し、考えや取組の良さを認める。 ・自己の取組みたいめあてと課題を決め、その解決に向けて練習方法や場、技の組み合わせ方などを工夫している。	
教 師 の 思 い	・器械運動の面白さを共有し、前向きに活動に取り組んでほしい。	・自分のめあてに向かって真剣に活動してほしい。 ・【着手】【勢い】【着地】を意識して活動してほしい。		・自分のめあてに向かって真剣に活動してほしい。 ・【助走】【踏み切り】【着手】【空中姿勢】【着地】を意識して活動してほしい。		・6年間の器械運動のまとめという思いで、少しでも自分の技を高めていってほしい。 ・器械運動が「少しでも楽しかった」と学習を終えてほしい	

☆本時までの単元の流れ

本時に至るまでの4時間の単元の流れを、児童の主な活動と教師の関わりという2つの軸で以下に示す。主な活動は1枚の写真で、教師の関わりは場や価値付けのポイントを明示する。

	児童の主な活動	教師の関わり (場…場の工夫, 価…価値付け, ○…その他)
第1時 十一月四日(水) オリエンテーション 技調べ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場の設定、準備運動（マット運動） <ul style="list-style-type: none"> ・えんぴつ転がり→クマ歩き →かえるの足うち→ゆりかご ○ 技調べ（マット運動） <ul style="list-style-type: none"> ・前転 ・大きな前転、小さな前転 ・後転 ○ これまでの器械運動の学習について振り返り、器械運動は何をすることが面白いのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・出だし→シャキーン（「行きます」の合図） ・途中→？（マットと跳び箱で違う） ・着地→ピタッ！（どちらも共通） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人で1枚のマットを準備するよう指示を出し、マット運動の準備運動を紹介する。 ○ これまでの技能の習得状況を確認するために、前転をする様子を見て、児童の実態把握に努める。 価 着地までをスムーズに行えている児童を価値付けると共に、大きな前転や小さな前転等のバリエーションを考えるよう促す。 ○ 体操選手の床や跳馬の動画を見て、自分達がやってきたマット運動や跳び箱運動との同じところを考えることで、器械運動の面白さに迫らせる。 
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習テーマ シャキーン！→？→ピタッ！を楽しもう！ </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動（跳び箱） <ul style="list-style-type: none"> ・尻上げジャンプ ・跳び乗り→跳び下り ○ 技調べ（跳び箱） <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び →遠くへの着地 ○ 片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マット運動同様、主運動につながる動きを準備運動として紹介する。同じ場で活動する児童同士でポイントを確認し合うよう声をかける。 価 ピタッ！と止まっている児童を称賛し、美しい着地について価値付けていく。さらに、着地の遠さに着目させ、今後の活動への見通しをもたせる。

- 場の設定、準備体操、準備運動
 - ・えんぴつ転がり→クマ歩き
 - かえるの足うち→ゆりかご
- めあての設定、確認



- 活動する



それぞれの場で新しい技に挑戦だ！

最初に立てためあてに基づいて、自分達で場を選択し、練習に取り組んでいます。坂道マットや細マット、セーフティマットなど場に合わせて練習方法を工夫することができます。

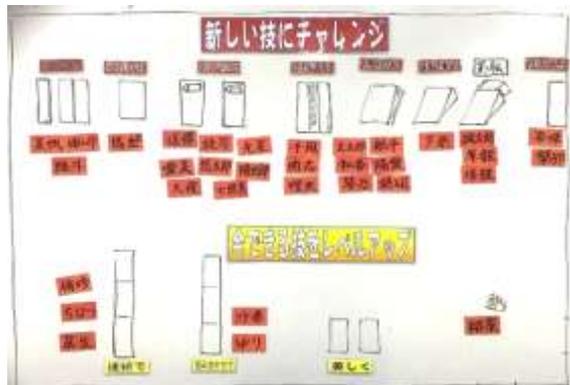
- ふりかえりを行う。
 - ・今日は開脚前転に挑戦しました。平らなマットでは勢いがなかったので、できるようになりたいです。
- 片付ける。

- 特にゆりかごで立つことが難しい児童について補助をする。
- 【シャキーン→くるっ→ピタッ!】というマット運動の学習テーマを確認し、「今できる技をレベルアップして楽しむ」「新しい技にチャレンジして楽しむ」という2つの楽しみ方からめあてを立てるように促す。

☑ めあてに合った練習方法を選んでいる児童を称賛し、価値付けていく。また、それぞれの場に合わせたポイント（坂道の場合は「回転の勢い」など）。がなにかを問い、そのポイントを意識して練習するように促していく。

- 前転でつまずいている児童には補助に入り、回転の勢いをつけたり、着手の向きを修正したりすることで、習得できるようにする。
- 自分のめあてに対する活動をふり返り、記述させる。記入が終わった児童には、近くの人と交流するように促し、その中で出てきた新しい気づきやポイントは全体で共有していく。

- 場の設定、準備体操、準備運動
 - ・えんぴつ転がり→クマ歩き
 - かえるの足うち→ゆりかご
- めあての設定、確認



- 活動する

- 前時に引き続き、ゆりかごで立つことが難しい児童について補助をする。
- 前時の振り返りを受けて児童が立てためあてを白板に整理しておき、それぞれの場で見合いながら活動することを促す。

伸膝前転に挑戦する子供たち。技をする子供とそれをサポートする子供に別れ、見合いながら活動しています。手を引いてあげたり、一緒に喜んだりする素敵な学習の雰囲気が出ていました。



膝を伸ばしたまま立ち上がるなんて！難しいから面白い！

- ・見てみてタイム
(同じ場で活動する友達と見合う時間)

- ふりかえりを行う。
 - ・伸膝前転をしました。坂+マット2枚という助言をもらってやってみると楽にできた。マット1枚まではできたけど、坂じゃないとできなかったんで、できるようになりたい。
- 片付ける。

- 児童が活動する技に合わせて場の提示を行うことで、児童が自主的に学ぶ場をデザインしていく。

☑ 技の形態図と照らし合わせて、踏み切りや着地に注目しながら活動している児童を称賛する。

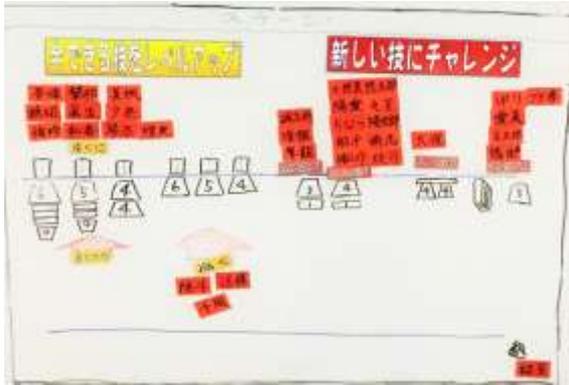
- 自分のめあてに対する活動をふり振り返り、記述させる。記入が終わった児童には、近くの人と交流するように促し、その中で出てきた新しい気付きやポイントは全体で共有していく。

第4時

十一月二十四日(火)

跳び箱運動①

- 場の設定、準備体操、準備運動
 - ・お尻上げジャンプ ×10回
 - 跳び乗り+跳び下り+着地 ×5回
- めあての設定、確認



- 活動する



「遠くから」「遠くまで」開脚跳びって奥が深い！

こっこの女の子は「遠くに」跳んでいます。手の突き放しがカギですが、うまく跳べたかな？

- ・見てみてタイム
(同じ場で活動する友達と見合う時間)

- ふりかえりを行う。
 - ・1m手前からできるだけ遠くに飛ぶことができました。踏み込みは強く、手で跳び箱を押すと遠くまで跳べる。
- 片付ける。

- 場の設定後、準備運動を指示しながら、よく腰が上がっている児童やピタッと着地ができていた児童を称賛する。

- 事前に児童が立てためあてを白板に整理しておき、それぞれの場で見合いながら活動することを促す。

開脚跳びで「遠くから」跳ぶことに挑戦しています。跳び箱といえはすぐに「高さ」に注目しがちですが、「遠くから」に着目することで助走や踏み切りの重要性を感じます。お尻もよく上がっていますね。

- 両足で踏み切ること、両手を進行方向に向かって着くこと、ピタッと止まることを活動中に指導する。

☑ 着地でピタッと止まれた児童を称賛するとともに、自分のめあてが達成できた児童と喜びを共有し、新たな技への挑戦を促す。

- 自分のめあてに対する活動をふり返り、記述させる。記入が終わった児童には、近くの人と交流するように促し、その中で出てきた新しい気付きやポイントは全体で共有していく。